

ねんかん 28 の主日 ^{しゅじつ} きょうのふくいん(マタイ 22. 1~14)

みささん、おげんきですか。10がつになってすずしくなりましたので、べんきょうやうんどうもしやすくなったでしょう。にちようびは、きょうかいのミサであえるのをたのしみにしています。

マタイ22. 1~14 または22. 1~10

そのとき、イエスはさいしちようやたみのちよろうたちに、たとえもちいてかたられた。「てんのくには、あるおうがおうじのためにこんえんをもよおしたのににている。おうはけらいたちをおくり、こんえんにまねいておいたひとびとをよばせたが、こようとしなかった。そこでまた、つぎのようにいって、べつのけらいたちをつかいにだした。「まねいておいたひとびとにこういいなさい。しよくじのよういがととのいました。うしやこえたかちくをほふって、すっかりよういができています。さあ、こんえんにおいでください。」しかし、ひとびとはそれをむしし、ひとりにはたけに、ひといはしょうばいにでかけ、またたのひとびとはおうのけらいたちをつかまえてらんぼうし、ころしてしまった。そこで、おうはいかり、ぐんたいをおくって、このひところしどもをほろぼし、そのまちをやきはらった。そして、けらいたちにいった。「こんえんのよういはできているが、まねいておいたひとびとは、ふさわしくなかった、だからまちのおおどおりにでて、みかけたものはだれでもこんえんにつれてきなさい。」そこで、けらいたちはおおどおりにでていき、みかけたひとはぜんにもあくにもみなあつめてきたので、こんえんはきやくでいっぱいになった。」

11~14

「おうがきやくをみようとはいってくると、こんれいのれいふくをきていないものがひとりいた。おうは、「ともよ、どうしてれいふくをきないでここにはいったのか」といった。このものがだまっていると、おうはそっきんのものたちにいった。「このおとこのてあしをしぼって、そとにほうりだせ。そこでなきわめいてはぎしりするだろう。」まねかれれひとはおおいが、えらばれるひとはすくない。」

イエスさまは「てんのくには、あるおうがおうじのために、こんえんをもよおしたのににている」マタイ 22.2 といっています。みんなはけっこんしきにまねかれたことがありますか。そのとき、なにをきようかとかんがえたりして、そのひをワクワクしてまっていたことでしょうか。

わたしはちいさいときにむらにすんでいて、そのむらのひとがけっこんすることになったら、むらじゅうのひとがそのけっこんしきにまねかれていました。みんなよろこんで、そのけっこんしきとパーティーにしゅっせきしていたことをおもいだしました。きょうのふくいんしよでは、まねかれたひとたちははたけしごとやしょうばいなど、じぶんのつごうのためにまねきをことわってしまいました。もっとすばらしいところにまねかれたにもかかわらず、このよのりえきのためにことわってしまったのです。そのうえに、しょうたいをつたえにいったおうのけらいまでをころしてしまいました。

そのときおうはけらいに「こんえんのよういはできているが、まねいておいたひとびとは、ふさわしくなかった。だからまちのおおどおりにでて、みかけたものはだれでもこんえんにつれてきなさい」とたのみました。マタイ 22.8~9

つれてきたひとたちのなかで、れいふくをきていないひとがいたので、そのこんえんからだされました。しかしイエスさまがいたいのは、「れいふくをきていない」ことではなく、わたしたちのいきかたやところがどんなところでいきているかどうかをこのたとえをばなしをしておしえたいのです。かみさまはすべてのひとをこころからあいし、みんなをてんこくにへまねいておられます。

わたしたちもそのおもいにこたえて、かみさまといっしょによろこびをあげることができるよう、わたしたちの「こころのれいふく」(いきかた)もしっかりじゅんびすることができますようにといのりたいたいですね。